

ヤギを活用した高田松原のクズ駆除対策について

1 説明会及び体験会の開催

大船渡農林振興センターでは令和7年7月17日、陸前高田市の道の駅陸前高田のセミナールームと高田松原において、「高田松原のクズ駆除対策に係る実証事業説明会及びクズ駆除体験会」を開催しましたのでその概要について御紹介します。

令和7年度地域経営推進費を活用し、高田松原防潮林における「クズ」の繁茂対策として実施しているヤギを活用した駆除の実証事業の一環で開催され、県、市、NPO法人高田松原を守る会、東日本大震災津波伝承館などの関係機関等、約20名が参加しました。

2 クズ駆除対策実証の経緯について

高田松原は、東日本大震災により壊滅的な被害を受けましたが、平成28年から松林の再生に取組み、これまでに約4万本のマツが植えられています。

しかし昨年、クズの繁茂が原因の一つと考えられる枯損が一部のマツに確認されたことを受け、薬剤による駆除は海水浴場に近接するため環境衛生上好ましくないことから、環境負荷の少ないヤギによる駆除が検討されたところです。



3 クズ駆除対策実証事業の概要

大船渡市日頃市町の鈴木信男氏が飼育するヤギ「ムギ（3歳）」と「ロロ（1歳）」が事業サポーターとして任命され、“クズ”で作られたリースが任命の証として贈呈されました。ヤギたちが防風柵に絡まったクズやヨモギなどを積極的に摂食している間、参加者は30分間で約35kgのクズを刈り取りました。回収したクズは今後乾燥させ、ヤギの嗜好性を確認する予定となっています。



4 参加者の感想等

参加した関係者からは「ヤギがクズを好んで食べて安心した」「どれほどの範囲に対応できるかは未知数だが、ボランティアの力も借りて保全を進めたい」との声が上がりました。

5 今後に向けて

次回は、高田松原にヤギを係留してクズ等の摂食状況を確認し、11月には関係者を対象とした報告会を開催する予定としています。

ヤギを活用したクズ駆除が高田松原の松林再生に寄与することを期待しています。